

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第23回）

議事録

日時 平成29年8月28日（月）10:45～12:00
場所 本丸御殿 孔雀之間
出席者 構成員
小浜 芳朗 名古屋市立大学名誉教授 座長
溝口 正人 名古屋市立大学教授 副座長
小松 義典 名古屋工業大学大学院准教授
野々垣 篤 愛知工業大学准教授
麓 和善 名古屋工業大学大学院教授

事務局

観光文化交流局名古屋城総合事務所
教育委員会事務局生涯学習部文化財保護室
住宅都市局営繕部営繕課

議題 1 本丸御殿復元工事について
・工事状況について
・工事工程表
・建築装飾ワーキングの検討内容報告

配布資料 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 建造物部会（第23回）資料

事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 部会構成員、事務局 紹介</p> <p>4 今回の議事内容について</p> <p>まず資料の確認をいたします。会議次第 A41 枚、同じく A4 が 1 枚で座席表、今回の会議資料で A4 のホッチキス留め 1 冊です。</p> <p>それでは議事に入らせていただきます。本日の会議の内容ですが、本丸御殿の復元工事についてです。皆様方から忌憚のない意見をいただければと思っています。ここからの進行は小浜座長に一任いたします。よろしくお願ひします。</p>
小浜座長	<p>さきほど本丸御殿の現場を見せていただきました。あと半年ということで、上洛殿を拝見させていただきました。皆様の意見を伺いたいと思います。</p> <p>まずは本丸御殿の復元工事について事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>5 議事</p> <p>本丸御殿復元工事について</p>
営繕課	<p>本丸御殿復元工事について説明いたします。営繕課より工事の状況・工程について、引き続き文化財建造物保存技術協会よりワーキングの報告をいたします。</p> <p>まず工事状況についてです。本丸エリア素屋根内部状況です。上洛殿、上御膳所では内部造作工事を、黒木書院では内部造作工事、屋根工事、左官工事を、湯殿書院では内部造作工事、左官工事を行っています。写真の①として上洛殿ですが、長押取り付けをほぼ完了しています。今日も現場で見させていただきましたけれども、内部の写真については、足場が施工されています。②は上洛殿の屋根状況です。破風への鋳金具の取り付けが一部ですが始まっています。③は上御膳所です。写真の奥、上段の内法上部ですけれども、現在壁板の施工を行っています。それが終わりましたら、左官工事、木工事、あと屋根工事につきましたは完了になります。④は黒木書院の屋根状況です。品軒が終わりまして瓦工事へ進んでいく予定です。⑤は屋根工事状況です。現在は軒付です。こけらの軒付け作業を行っています。⑥は湯殿書院です。左官工事、今は小舞の状況ですけれども、荒壁を進めていく予定になっています。</p> <p>続いて工事工程表を説明いたします。平成 29 年 2 月から平成 30 年 3 月の工程です。</p> <p>上洛殿からですけれども、内部造作を 5 月、天井の格縁天井は後ですけれども、それ以外は終了いたしまして、床下の構造補強で根太、荒床、順次内部造作に取りかかり、8 月に入り天井の内部足場を組みま</p>

	<p>して、天井を施工しています。屋根工事ですが、こけら葺を進めていましたが4月中旬に終了しています。7月に入り、瓦、棟瓦の工事を8月初旬にかけて行い終了しています。左官工事ですが、主な壁については荒壁を終え、中塗を進めました。今後乾燥に入りまして、10月あたりまでに漆喰を終わらせる予定をしています。</p> <p>次は上御膳所です。木工事ですが、2月のあたりは内部造作を進めていましたが、先ほど説明したように現在壁板の施工を行っています。今月中に完了する予定です。屋根工事、左官工事ともに完了しています。</p> <p>続いて黒木書院です。木工事ですが、2月より軸組建方を進めており、順次軒出、小屋組、構造補強、根太、荒床、内部造作を進めています。現在は東入側、南入側の内部造作工事を行っています。屋根工事ですが、こけら葺はほぼ完了しまして、品軒が終わり、瓦工事に移りまして、のし瓦、棟瓦と進んでいきます。左官工事ですが、5月頃より下地組を始めまして、秋頃までかけて施工を行っていく予定です。</p> <p>湯殿書院です。2月初めに土台から進めているところですが、5月より軸組建方、順次軒出、小屋組、内部造作を進めています。今、加工を主に行っています。屋根工事ですけれども、現在は見ていただきましたけれども、軒付を進めている状況です。左官工事ですが、7月中旬より下地を始めまして、順次荒壁、中塗、漆喰等を1月までかけて行っていく予定です。</p> <p>工種別に移って仮設工事ですが、7月より段階的に準備工事を進めています。9月から壁の撤去から、解体を進めていく予定です。石工事ですが、本体の礎石の据付はすべて完了しています。塗装工事ですが、破風については現場塗装ですけれども、それ以外のものについては工房で、順次作業を進めています。建具工事ですが、工房で製作を順次進めており、11月より現場作業を行う予定です。彫刻欄間工事ですが、現在工房において彫刻および彩色を行っています。10月より先に3か所の取り付けをする予定です。表具工事ですが、工房の方で下地の製作および上貼を行っています。9月から障壁画の模写の位置決め、位置合わせから現場の作業を開始する予定です。金具工事ですが、工房にて順次製作を行っており、一部取り付けを進めています。12月から現場での取り付け作業が最盛期になってくる予定です。雑工事、畳工事ですけれども、10月に採寸・制作ののち、1月より現場にて敷き込みの開始を予定をしています。整備工事ですが、2期までにすべて完了しています。外構工事ですが、順次雨落ち、たたきの工事を進めています。12月より建物周りの配管・舗装等を進めていく予定です。設備工事ですが、進捗に合わせ施工を進めている状況です。工事の工程表については以上です。</p>
文建協	<p>続きまして、建築装飾ワーキング等の検討内容報告です。資料は3ページからになります。まずは上洛殿の彫刻欄間に関するワーキングの検討報告です。彫刻は以前から何度かワーキングで指示をいただいています。富山県井波で彫刻を彫りまして、彩色は京都で行っています。富山から京都に行く途中で、名古屋城に物を運び、そこで職人さんも随行して最終的な手直ししていくわけですが、富山の現場にも必要に応じて、こちらからワーキングでチェックしにいった、粗彫り、</p>

本彫りを数回チェックして進めている状況です。

資料に掲載されている順に説明いたします。最初の3ページは、錦鶏と落葉松の題材です。下に白黒の古写真を掲載しています。以前のワーキングでこの鶏の特徴として、彩色の首にある縞ですとか、頭の冠などから、錦鶏と推定しています。まず彫りに関してです。粗彫りチェックに関しては、それとそれに伴う修正は進んでいます。今日の報告は本彫りの最終工程のものです。最終的にチェックした部分で、肉のある部分は当然、細くするべきところは落としていただいて、根元から直さなければならないところは付け木を施して訂正をしている状況を、最終の手直しとしています。

指摘事項とその説明です。鶏の羽根の部分ですが、彫るほうとしては羽根が薄くなっていくと怖いということですが、二条城などはかなり思い切って薄く羽や尾羽を削いでいますので、写真で伺えたとおり、薄さ加減を二条城を参考にするとということです。そして葉の部分です。③と④は、土坡と立体的にくっついている葉に関して、葉脈と茎の付け根の様子から葉の表なのか裏なのか。そういうところが、実際の彫刻、古写真を観察するとよくわかるということで、しっかりそういうところも細部までしっかり表現するというのを指摘していただいています。雲に関してですが、全体的にエッジが立ち過ぎているので、もう少し古写真をもう一度観察するという指摘をいただいています。古写真は平面的な正対の古写真に関して資料に挙げていますが、何枚かの彫刻欄間については、古写真で斜めから見上げたような写真や、少し高いところから斜めに撮った写真などがあります。そういうところを総合しまして、彫刻の出具合、雲の渦の奥まったところから突出している具合、窪んでいるのか、へこんでいるのか、膨らんでいるのか、そういったところを観察して、現場にパソコンを持ち込んでワーキングの場で拡大しながら検討し、最終的に判断して進めていくという状況です。

3ページの下は、これの裏面です。それについても、例えば図面、写真に描いてあります⑥番、⑦番などが、枝の入り方です。木の幹から枝の入っていく表現ですとか、⑨番⑩番、先ほど表面で出てきた葉の付け根の様子を確認し、裏表をしっかりと見ながら彫りをしっかりと写真に忠実に行うという指摘をいただいています。共通事項としては、松葉の、たとえば彫刻を鋭角なものを残しておくとか彩色が角の部分にしっかりとのりません。実際に写真を見ますと、やはりそんなにピン角にしているわけではなく、少し面取りしている状況が伺えますので、最終的に塗装のことも考えた細部、塗面、非常に微小なことですが、そのようなところに気を付けるということです。それから土坡ですが、全体的に少しごつごつ感がどうかということで、丸すぎるように見えるので、ごつごつしたような、実際のリアリティを表現してほしいということ。それから雲のエッジ、枝の古写真をしっかりと確認すること、という指摘をいただいています。現場で手直しをして彩色へ運ぶという状況です。

4ページですが、基本的な指摘事項としては似ています。もう1枚続く、錦鶏と落葉松の題材です。各場所の彫刻欄間によって手の違いがあるのか、雲が一樣の手法でないところがあります。やはり個別に雲もしっかり写真を見ながら、拡大した斜めのカットみたいなものです。ね、しっかり彫刻表現するという。それから指摘事項として、

以前も何回かありましたが、しっかりと彫跡、古写真を拡大しますと彫跡が非常に上手いこと表現されていて、ぼこぼこしていると。そういうところも少し見習うべきであるというところで、鑿跡をもう少しつけるといふ指摘があります。それから鶏の脚の部分です。これをもう少し観察し、踏ん張っている様子が必要である。それから嘴も少し厚くなるので修正したほうがよいと。それから土坡の部分、花の部分、このあたりに関しては詳細を、写真を見ながら、もうちょっと立体的に表現するようにと指摘していただいています。

続きまして4ページ下の部分です。この題材に関しては少し似たような鶏が出てきておりますが、真ん中の、尾羽の2本が長く、かなり長く出ています。過去のワーキングで、いろいろと彫刻欄間の本とか中国の文献などを見ていますと、少し鶏の名前と実物が取り違えられて掲載されているものもありますが、それがそのまま伝わって日本でこうなっているということもあるのですが。これに関しまして山鳥かと考えてきています。花に関しては牡丹、椿、それから右側の閑古鳥は、色が入ってきている状態です。これについては彫りで以前ワーキングで、部会、全体検討会議で報告しましたけれども、閑古鳥をイメージさせて、非常に動植物、雲、土坡、そのような組み合わせが巧みに表現されているわけですが、先ほどの6から9に戻りますが、これに関しましても同様に雲、花の芯、土坡、このあたりはしっかり古写真を観察して、隣り合う雲との関係を、土坡ですとか、そのような部分をしっかり観察して、表現を修正するということ。それから土坡の部分で勾配がきつすぎる部分や、木の曲がりきつすぎる部分、凹凸が違っている部分、このあたりは、彫り出しできないところは、付け木を施して修正したりしています。

4ページまでが彫りの造形に関する指摘事項と修正箇所についてでした。5ページは、実際に彩色が進んでいる状態で、また指摘が入っています。これに関して、笹と梅と閑古鳥、ちょっと細かいところですが、1番から6番まで赤い丸を付けていますが。大和苔の感じが少し写真と違うので、そのあたりを少し修正すること。それから鶏の喉の線ですが、彫りの、彫刻の造形による線なのか、彩色による線なのか、少し迷うところが多少出ています。彫りの段階でワーキングの委員も交えまして、彫りでいくか、塗装で線をつけるかということで、今回は細い線、塗装すべきところに関して不十分であるところがあったので、そのような指摘をいただいています。あと、ぼかしという技法もあります。その段階的な特徴をしっかりと、白黒の古写真ですが、類例などを交えながらぼかしの状況をしっかりと、段階的に見分けるといふこと。それから毛描きをしっかりとやること。それから太鼓の台の線を少し太くすること。このような彩色に関する指摘をいただいています。

同様の内容が続きますが、下の写真も閑古鳥です。一番下の鶴と牡丹のモチーフですが、これに関しても塗装の段階で指摘があり、また京都の工房で直しているという状況です。直ったあと、初めて現場に持って来て、そこでまた最終的な確認をするということになっています。この2枚目の閑古鳥に関しては、細部の指摘がでてきます。羽根の毛描きの部分がもう少し見えているはずだといふ指摘をいただきました。非常に細かいですが、鶏の鼻のぼかし具合、それから墨の線をしっかりと表していくこと。水墨画でくくりなんかで、非常に重要

な墨線の入れ方もあるので、そこをしっかりと観察して墨線を入れるということ。それから足の模様を、毛の描き方を注意してしっかりと修正するという、という指摘があります。あと全体的な共通事項として、非常に本質的なことですが、鶏の塗り方が少し現代的すぎるのではないかと。非常に難しいところなのですが、ほかの題材、彫刻などでも、鶏の例は限られているのですが、そんな中でもう少し研究して、あまり現代的にならないようにと指摘をいただいています。下の鶴に関しても、羽根、顔、目の下の部分は、もう少ししっかりと観察して特徴を見るようにと指摘をいただいております。

最後の6ページ目です。第3期の鋳金具についてです。第3期分で、鍵に相当する、建具の打掛金具で、U型のものが出てきています。以前のワーキングで少し、さわりの部分を説明しています。真鍮ですね。第3期の金具で、今までは銅に金箔でしたが、真鍮に金箔というものが、実際に成分分析でも、確かに出ています。一方その真鍮で、もともと真鍮色できれいな色が出る金具ですが、金箔をしているのではないかという意見がありました。分析して、やはり金が検出されたので、真鍮でさらに金鍍金をする、そのような仕様であることはわかりましたので、設計の仕様を変更いたしました。真鍮に金鍍金。そしてこの金具で少し気がかりなのが、真鍮に対してうまく煮黒味がのるかどワーキングで少し審議が出ています。これに関しては真鍮で彫ったり、地金で溝を造ったところ、どういう煮黒味で着色するかと、慎重に様子を見ながらいい発色が保てるか、しっかり実験的にやっていくという段階です。

それから引手に関しては、Fですけども、これも今まで出てこなかった仕様です。溝の部分に金が入っていて、古写真を見ていくと。実際に黒く塗る部分の跡に、煮黒味の仕様としては金箔を貼って鍍金をした後、いらぬ部分を削り取って銅の地を出してから、そこに着色するという仕様で、黒くしていく工程なのですが、溝の部分の金の保存をどう解釈するか。これもワーキングでいろいろと検討していただき、煮黒味と同様に沈んでいる部分に金がきて盛り上がっている部分に黒がくるといった場合、あとで金を施して表面をすいたり、あるいは削るという作業が必要なので、それに伴ってそういうことをしていくと魚々子が、当初はそれなりにあったものが、あとで削っていくと浅くなるという懸念があると。そういうところが審議になりました。実物の引手金具、これも写真を、本来の実物を詳細に掲載すべきところでして、申し訳ございません。実際の上記の金具だけになっていますが、実際古写真で見ても、非常に薄いところ、彫りが、魚々子なども消え入りそうなくらい薄くなっているというところで、実際に実物に合わせて無理に彫金を深くしなくてもよいのではないかとという指摘をいただいています。それから3期に関しましては、非常に金具が手の込んだ立体感のある、あるいは複数の金具が、銅の地金と化粧で重ねていくという金具が出ています。引手の金具と手持ちの八双、実際にこの金具に関しましてはまだ着色、鍍金の前、彫りの段階で、今ワーキングで指摘いただいています。

まず指摘内容に関しては、3期の上洛殿の舞良戸の引手金具ですが、葵紋が表面的に膨らみ過ぎているということ。それから覆輪部分も、葵紋とも立ち上がりを垂直にもう少し近く、際が少しぼやけているので、シャープに立ち上げさせるということ。それから全体的に、彫金

	<p>自体はもう少し浅くして凹凸がそんなに激しくないようにという指摘をいただいています。</p> <p>それから違棚の天袋の底板にある銕金具です。葵紋が少し具合が違うということ。今まで出てきていますが、引手を参考に修正すること。それから七宝繋ぎの紋です。この花卉も、これは刷り本、拓本しか実物の資料が残っていないので、これも彫りながら、彫ったものを拓本をとって比較しながら進めているところです。少し感じが違うのではないかと、もう少し意識して彫りを進めていくようにという指摘をいただいています。</p> <p>最後ですが、帳台構です。上洛殿の金具に関して、八双金具です。この鳳凰ですね、先端の尖り、それから胴、翼、尾羽、このあたりの表現をしっかり、立体感がそれぞれ違うと。一様に膨らませて出せばいいというのではないという指摘をいただいています。それと大和苔に関しては、もう少し拡大をして、修正をして、もう少し苔をへこませるような彫金をするという指摘をいただいています。</p>
小浜座長	<p>ありがとうございました。以上、本丸御殿の工事の関係と進捗状況、装飾ワーキングについて説明していただきました。意見、質問がありましたらお願いします。</p>
麓構成員	<p>まず工程表です。欄間彫刻の説明で、井波でつくっている彫刻は一通り終わり、そして今京都で彩色をしていると判断すればいいですか。ここには取付けのことは書いてあるのですが、製作のことが書いてないので、その点いかがでしょうか。</p> <p>もうひとつ、銕金具も取付けは実線で書いてありますけども、製作のことが書いてないので、工程表のとおり、取付開始ができるように製作が進んでいると思いますけども。それは、どんな進捗状況でしょうか。</p>
宮繕課	<p>彫刻欄間ですが、先日のワーキングで提示させていただいた彫刻については2体ありまして、それが最後に見たものです。1体はあらかじめ下彫りが進んでいる状態で、まもなく修了の検査を行いまして、そのあと京都へ持って行く予定です。もう1体はかなり荒彫りの状況ですので、あと1か月半くらいかかって仕上げ彫りが完成する予定になっています。引き続き検査したあとに京都に持って行く予定です。</p> <p>金具のほうですが、順次ワーキングへ提示させていただき、いろいろ意見をいただいて反映している状況です。先日、上洛殿帳台構の金物が出てきまして、完成度が高い。あとほかの天井金具、数の多い引手とか天井についてはあらかじめワーキングへ提出させていただいていまして、製作を順次進めている状況です。</p>
麓構成員	<p>工程表で、取り付けるだけでなく、外の工房で製作しているということも含めて書けば、建具工事であるとか、彫刻欄間であるとか、銕金具であるとか、ここに実線で、製作っていうのが入ってくるんですね。</p> <p>それで実際の彫刻欄間ですけど、これはいかに現代の職人が古いものに近づけるかということで、あまり細かいところの、あそこが違う、ここが違うといっても限界が出てくると思うのです。直るか直らない</p>

	<p>かは別にして、大事なところで言わせていただきますと、4 ページの山鵲。先ほど名称はいろいろあるというふうに言われて、山鳥という言い方をされましたが、名称としては日光の宝暦の結構書では山鵲ということになっていて、だいたい山鵲で通っていると思います。それは鶏の名称であって、別の言い方として綬帯鳥という言い方もあって、これまでの名古屋城の障壁画の図録で、これは単に彫刻だけではなくて障壁画にもこういう鶏が書かれていて、そこには綬帯鳥という名前がついていて、綬帯鳥もいいとは思いますが、ちゃんと言うなら山鵲だと思いますが、それとは違う名称を言ったのでちょっと気になりました。</p> <p>この名称はさておいて、彫刻です。山鵲の2本の長い尾羽というのが非常に重要で、これでどのくらい生き生きした感じが出てくるかということだと思いますが、古写真を見ると下の左右にいる山鵲の、右側の2本の尾羽は非常にシュートときれいな円弧を描いて、胴体からきれいな円弧を描いて先端までいっているのが、今作っているものは尾羽の中ほどで折れたような感じになっています。ちょっと気にかかります。でもこれは今さら直せといっても難しいと思います。そこまでしなくてもいいかなと思います。左側の山鵲の尾羽は、シュートと伸びていって2本が先で大分離れていますけど。今の黄色いほうの写真を見ると、2本の尾羽が先端で広がったような感じがありません。なんか1本に重なっているような感じがこの写真では見えます。これはなんとかならないものかなあという気はします。この古写真を見ながら非常に忠実に作りましたという時に、ここで尾羽の感じが違うと困るかなという気がします。</p> <p>あとは、この資料だけではなかなか細部までわからなくて、ワーキングの方で「こういう指摘がありました」という指摘の報告を聞くだけで、それを資料で私たちが確認するということはできません。もっと丸をつけている部分を大きくした写真等があったらわかるんでしょうけど、これではそれ以上のことは、こういう指摘があったということだけでわからないです。</p> <p>あと6ページに鋳金具がありますが、できたら鋳金具のような小さいものは、この委員会のあるときに実際の試作品等を見せていただくと、どういう状況になっているかというのがわかると思います。写真を見ても、こういう指摘がありましたという報告を受けるだけで、ほかにかどうしたらいい、こうしたらいいというようなことまでは言いきくとは思いません。</p>
小浜座長	<p>今麓先生が言われて気が付きましたが、古写真と彫刻の尾羽ですが、これだけの小さな写真でも大分違って見えます。ここの指摘はワーキングでは出なかったですか？</p>
文建協	<p>大変申し訳ありません。ちょっと説明が足りませんでした。この状態は、これから塗りにもっていかうという最後の状況ではなく、まだ付け木を固定していない段階で、仮に押さえたりしているものですから、本当はここにしっかりとそういうことをわかるようにして、しかも写真を並べる時には、その状態に持ってきて、写真を合わせるべきだったんですが。実際は塗り場に運んでそこで固定する付け木もあり、非常に多数のパーツがあります。まず同じになるように一通り仮</p>

	<p>につけた状態で写真を撮っているものですから、彫刻に関しましては実際のワーキングで、それを付けてこういう向きにするという、全部まだ動く状態ですので、それでこういう感じ、こういう感じというような指摘をいただきながら、そこで線をつけて、ここで固定でいきましょうという手順でいっています。さっきのこの、非常に細かい彫刻に関しては付け木の部分で、必ずしも古写真と、ぴったりと目論んだ最終の絵ではないのです。大変申し訳ありません。</p> <p>また先ほど指摘された山鵲の問題ですが、さっきうっかり私山鳥と言いましたけれども、実際今までのワーキングでは名称がいくつか間違っていて、山鳥という名称もあるけれども、実際には山鵲ではなからうかということで、ワーキングで、4年か5年前ですが、確かにそのような題材の話がありました。ちょっと私が山鳥と言ってしまい申し訳ありませんでした。</p> <p>また資料に関しましては、再三指摘がありますので、もう少し詳細の拡大、要点をついた写真を載せられるように努力したいと思います。</p>
麓構成員	<p>今の説明ですと、この山鵲の尾羽は2本とも付け木ですね。そういうことであれば右側の山鵲の尾羽の折れたようなのも、もし付け木でしたら簡単に直せますよね。もうちょっと写真に忠実に胴体からピューと円弧で、勢いよく流れるような尾羽に変えていただきたいと思います。</p>
小浜座長	<p>完成ではないということですね、まだ。その辺はワーキングの先生に検討していただきたいと思います。</p>
小松構成員	<p>資料の写真ですけども、古写真と現在の写真、光の当て方が違うように見えます。立体物の写真を撮る時はライティングにかなり気を遣ったほうがいいと思います。実際にはまっている状態で写真を撮ると下から光が当たっていると思いますが、今回は上から当ててないですか。ちょっと立体感が違って見えている気が私にはするのですが、一番わかりやすいのは、6ページの一番下の金物です。古写真は下から光が当たっていますが、試作品は上から当てていますよね。影の出方が違って見えているので、かなり見え方の影響を受けているのではないのかなと思う部分がありますけども。</p> <p>これは資料なのでいいと思いますが、実際に設置した後のライティングっていうのもかなり気を遣っていかなければいけないと思っています。例えばこの部屋でも、従来なかった位置に照明がついているので影の落ち方がかなり違っていていると思います。建築自体はそれでも見過ごせるところがあると思いますけれども、欄間なんかだと光が上から当たるか、下から当たるかで、実際に見る人のとりかたがかなり違ってくるので、少し検討されたらいいのかなと思います。</p>
小浜座長	<p>ここに出てくるのは小さな写真ですので、そこらの光の当て具合も古写真と比較すると違っていているかもしれないですね。</p>
営繕課	<p>この部屋の照明は整備で付けた照明ですので、これから造る上洛殿とかは、当時のままでということで、金具とか、それが実際の照明がなかった時と同じような感じで、できるだけ当時のかたちで考えてい</p>

	<p>きたいと思います。他のこれからできる観覧部分になっているような部屋については、ほぼ当時のままです。この部屋は特別に整備ということで、他の使い方、このような会議もできるように、復元したあとにいろいろ手を加えています。</p>
小浜座長	<p>そのほかはいかがですか。</p> <p>欄間彫刻で彩色されているのがあるのですが、先ほどの話だと、彫る人と色を付ける人は違うんですね。</p>
文建協	<p>はい。簡単な欄間彫刻の場合は彫った人が色をつけるというケースもありますが、今回は完全に別の職種、工種になっています。</p>
小浜座長	<p>そうすると、ワーキングとしては彫った段階でチェックを入れて、彩色したらまたチェックを入れて修正と、そういうふうにされるわけですね。</p>
文建協	<p>はい。彫りの段階でも彩色の方に見に来ていただいて、彫りの終わっていない段階で少し、どこまでが彫りの領域だとか、彩色はどこからやるとか、そこも打合せをしながら。ただ彩色の方はたくさん塗ってしまってから塗り直しというのはなかなかきかないものですから、そこら辺は見る時期を注意しながら、まだ手直しのきく段階で全体の彩色を確認をしつつ、それが写真とか、そのようなものを利用して確認していくということになっています。</p>
小浜座長	<p>今御殿用にいろいろ用法というか、コメントが書いてありますが、この程度のものは手直しがきくんですか？</p>
文建協	<p>はい。そういうことです。実際には少し掻き落とした部分もありますけれども、もともと金を全体にかかわで、木の下地部分に塗って色をかかわで溶いて塗っていくというのが彩色のやり方です。その色も掻き落とさないで次の色がちゃんと発色しない、混ざってしまう、というようなところがやはりこういう顔料ではできません。指摘のあったところに関しましては、墨線がちょっと足りないとか、書き足して済む部分は非常にスムーズにいけますが、どうしても一部落とさないといけない部分もあります。</p>
小浜座長	<p>ありがとうございます。他にございませんか。</p>
野々垣構成員	<p>3ページの古写真ですが、白黒の写真ですが、もともと色のついたものを白黒の写真で撮っているものですね。それと白木で彫ったところの比較で、きちっとそれに色がついて暗度になっている、明るくなっている部分と、今のギャップというか、そういうのはどう検討されているのか教えていただきたいです。</p>
文建協	<p>非常に難しいところでして、これは彫刻の欄間を作成開始した3年ほど前からついてまわる問題でして、例えば雲に線が描かれている</p>

	<p>と。雲のくくりの部分で渦が描きこまれて。それが何色かは存在しているんですが、この色というふうに特定が、写真の白黒だけでは断定できないという状況が多々あります。科学的な見解を聞いてみましても、カラーの情報を白黒にしたときに、RGB カラー・光の三原色がどのようにグレーになっていくかという傾向が出るんですが、カラーの色が完全に失われてしまうと、ある程度の推定、そしてほかの色を塗った時にそれを白黒にした時の見え方の比較からして、見比べ、定めるといふ、比定をする、そのようなことをしながら、あとはもう仕方ないのですが、同じ題材を用いているほかの類例をもとに、例えば牡丹が通常赤であって黒ではありませんので、そういう初歩的なところから比較を始めていながら。例えば笹の葉はやはり緑であろう、そうするとその緑が同じように色が白黒になって情報が失われている部分で、ある程度推定できる部分に、同じような色ができないとか、そのような部分は彩色の前の彫りの段階で彩色見取り図を作成いたします。見取り図は水彩絵の具で描きますので、この段階で色を審議する場がありまして、それで色をこうでなかろうかと見ていっていると。その途中の段階を説明するような資料をのせておらず、申し訳ありません。色についてはやはり類例に基づいて、それをどうしても持ち込まざるを得ないという状況が出ています。</p> <p>あと、埃をかぶって黒ずんでいる部分なのか、色がついている部分なのか、あるいは白っぽい色がついているのか、金色になる光沢なのか、これも非常に、写真をよく見ても断定がしにくいところもあります。ただほかの写真も相対的に見て、少し光沢があつて金が多い部分、これは全体にうかがえる傾向ですから、そうするとやはり全体に金が多い金がちの題材、まあそれを意図したものが名古屋城の彫刻欄間ではないかとか、そのような検討を進めながら色を考えておいていっていると。それは先ほど説明しました色の見取り図、水彩絵の具で描くときにワーキングの委員に目を通していただきながら、実際になるイメージを思い描いていく。</p> <p>彫刻の彫りの段階の人はここまで、色の部分はまだ頭にはないですが、そこから色の準備をしようとするときに、そのような推定して、作業をしているという状況です。</p>
野々垣構成員	<p>例えばどういう推定をしたとか、こういう判断をしてこういう決定をして決めていったとか。決めていった経緯、結果として出来上がった経緯というのは、将来的に公開しながら、そういった準備はされていかれるのですか。見ているものが、もとのものとどう違うか、わからないからこういう推定をしている。そういった部分を示しながら、見る人に示していく体制というのはとられていくのかどうかお聞きしたいなど。</p>
文建協	<p>現場の工事を進めていくうえで必要なことに関して、ワーキングに持って行く前段階の資料ですとか、その辺りで、ある程度検討経緯、例えば彫刻の土台となります材料をにかわで接着したりとか、実験を踏まえて検討してやっています。工事としてそれを事細かに報告できる状況にあるかという、ちょっと難しいところもあります。今後こういう事業ですので、しっかりと通常の報告書以上にもっと詳細に検討経緯を、今回あるいは本丸御殿の中で展示をするとか、</p>

	<p>そのような話が出ましたらまた名古屋城整備室さんと一緒に考えていくこともあるかと思います。現段階の工事ではそんなにすごく大変な報告書を、資料を提示していく、公開していくというところまではまだ手が回っていない状況です。</p>
小浜座長	<p>私からひとつ。工程表ですが、ようやく来年の3月竣工ということで、素屋根が今年の12月で解体ということですね。その後は素屋根が撤去されますから、外構工事とか配管工事とか塗装とかあるわけですが、この工事は外構までが範囲ですね。公開したときに庭やなんかはどうなっているのですか。庭は今のところ計画はないのですか。</p>
事務局	<p>庭については調査の段階ということで、本丸御殿が完成して公開の時には、庭までは整備していない状況になります。</p>
小浜座長	<p>公開の時期には庭は未整備の段階で公開するということになるわけですね。</p>
事務局	<p>はい、そのとおりです。</p>
小浜座長	<p>庭の中から外を見た時の感じはだいぶ違うので、ぜひこれは早く、復元ができるかどうか私もよくわかりませんが、お願いしたいと思います。</p>
麓構成員	<p>確認ですけど、このあとこの委員会は3月までにありますか、どうですか。今後の予定です。</p>
事務局	<p>最後にお話ししようと思ったのですが、建造物部会のほうは、完成間近になりますけど2月くらいに予定をさせていただいています。</p>
小浜座長	<p>よろしいですか。それでは進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>小浜座長、構成員の皆様どうもありがとうございました。本日はいただきましたご意見をもとに、引き続き本丸御殿の復元工事を着実に進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議事の概要につきましては、秋に開催を予定しています全体整備検討会議で、この内容について報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>あと先ほど麓先生からお話ありましたように、次回は一応2月くらいということで、また都合を早めに先生方に伺うようにいたしますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の会議を終了したいと思います。会議前の現場視察から長時間にわたりまして、ありがとうございました。</p>